

1 教育を取り巻く環境

	ページ
(1) 人口減少・少子高齢社会・核家族化	
① 県人口の推移と将来推計（三重県）	1
② 年齢3区分別人口の割合（三重県）	1
③ 世帯数と世帯当たりの人数（三重県）	2
(2) 国際化・グローバル化の進展	
① 外国人住民数の推移（三重県・国別）	3
(3) 経済・雇用環境の変化	
① 一人当たりの市町民所得（三重県・市町別）	4
② 年齢階級別若年無業者と人口に占める割合の推移（全国）	4
③ 卒業後3年以内に離職した人の割合	5

2 子どもたちの姿

(1) 文化芸術活動	
① 住んでいる地域の行事への参加状況	6
② 博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施状況	6
(2) キャリア教育・進路	
① 将来の夢や目標の有無	7
② チャレンジ精神	7
③ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導の実施状況	8
④ 職場見学・職場体験活動の実施状況	8
⑤ 県立高校におけるインターンシップの実施状況（三重県）	9
⑥ 県立高校卒業者の進学率・就職率の推移（三重県）	9
⑦ 高校卒業者の就職内定率の推移	10
⑧ 高校卒業者の産業別構成比の推移（三重県）	10
⑨ 県内高校卒業生の進学先、県外就職の状況（三重県）	11

3 子どもたちを取り巻く環境

(1) 安全・安心	
① 奨学金貸与者数（三重県）	12
(2) 教員	
① 教員の年齢構成（三重県）	12
② 教職員の満足度（三重県）	13
(3) 学校	
① コミュニティ・スクールの状況（三重県）	14
② 学校支援地域本部の設置状況（三重県）	15

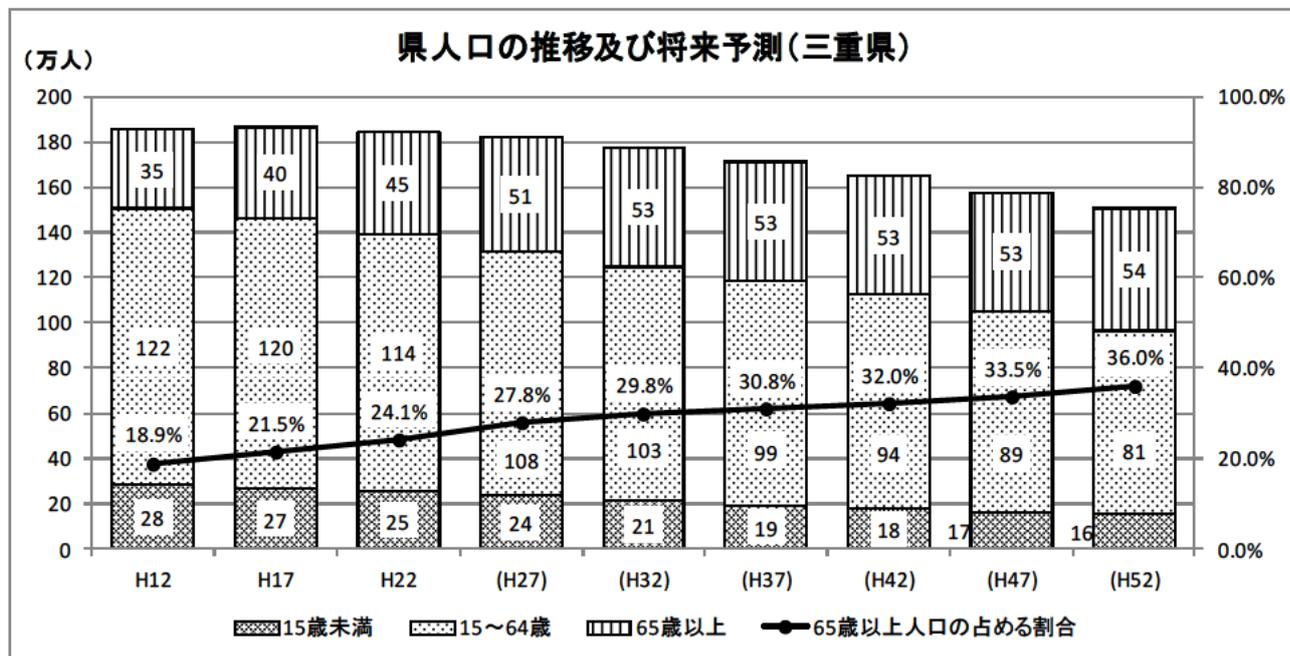
4 高等教育機関の現状

(1) 県内高等教育機関の状況	
① 県内高等教育機関の配置	16
② 高等教育機関の数に関する他府県との比較	16
(2) 県内高等教育機関の基本情報	17
(3) 三重県の課題	19

1 教育を取り巻く環境

(1) 人口減少・少子高齢化社会

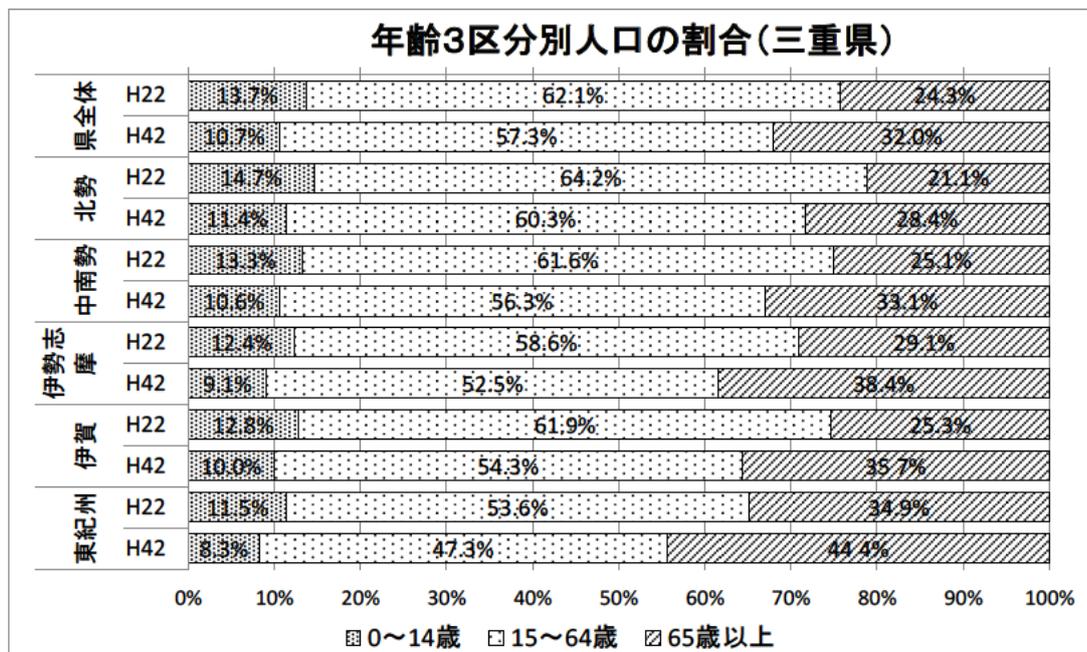
① 県人口（年齢3区分別）と将来推計



【国勢調査（総務省）、将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）】

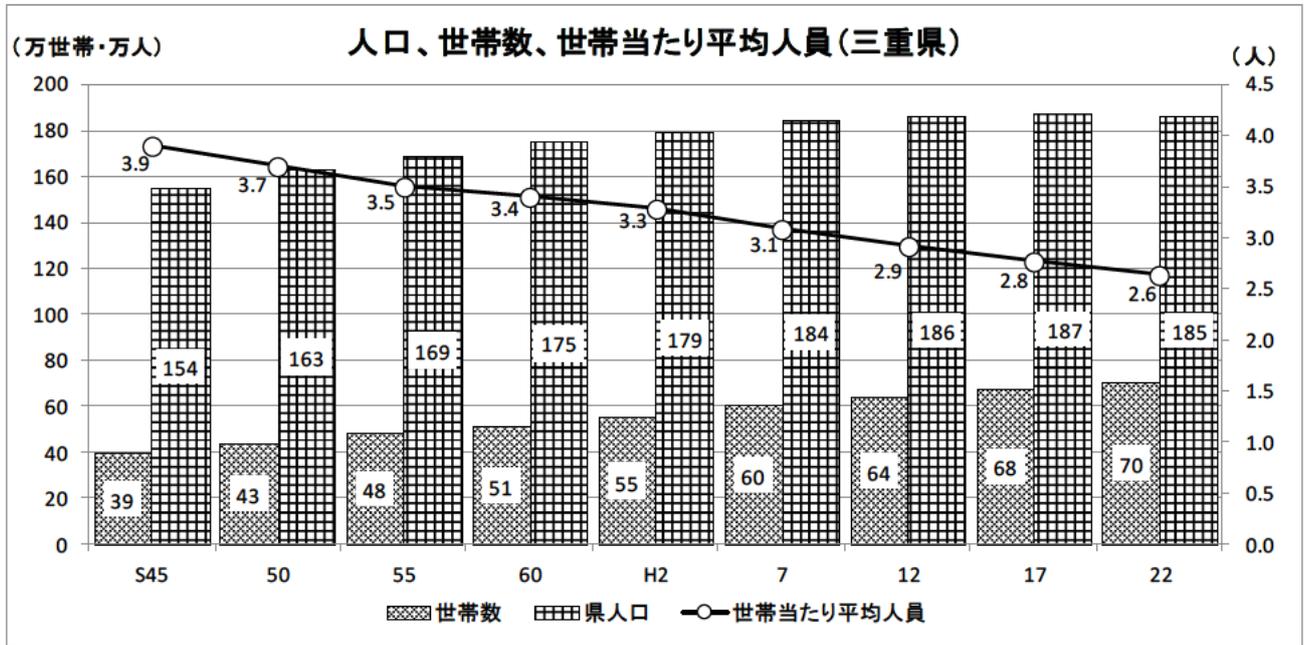
- ・ 少子高齢化が進む傾向となっている。

② 年齢3区分別人口の割合（三重県）



出典：平成22年国勢調査（総務省）、将来推計人口[中位推計]（国立社会保障・人口問題研究所）

③ 世帯数と世帯当たり人数

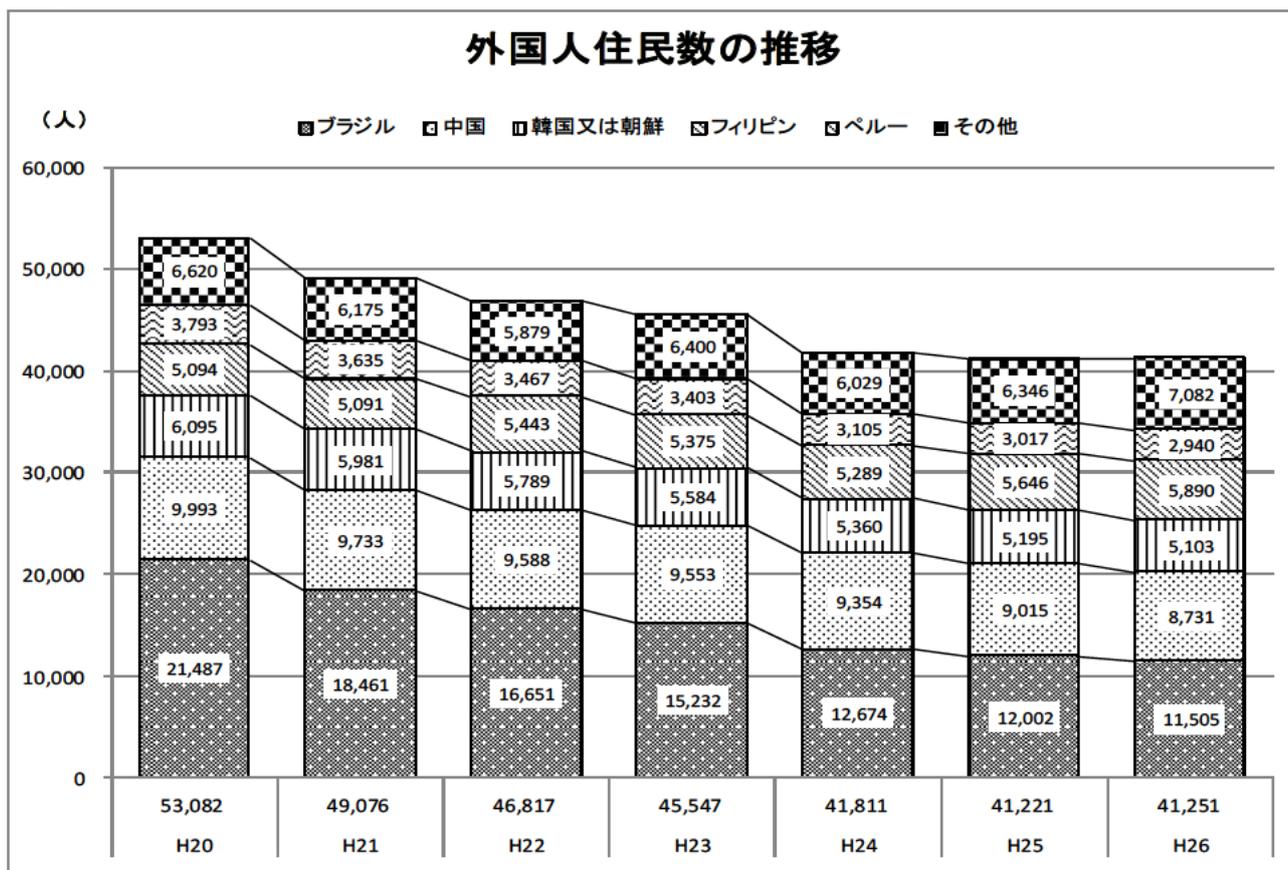


【国勢調査 (総務省)】

- ・ 世帯当たりの人員は、年々減少している。

(2) 国際化・グローバル化の進展

① 外国人住民数の推移（三重県）



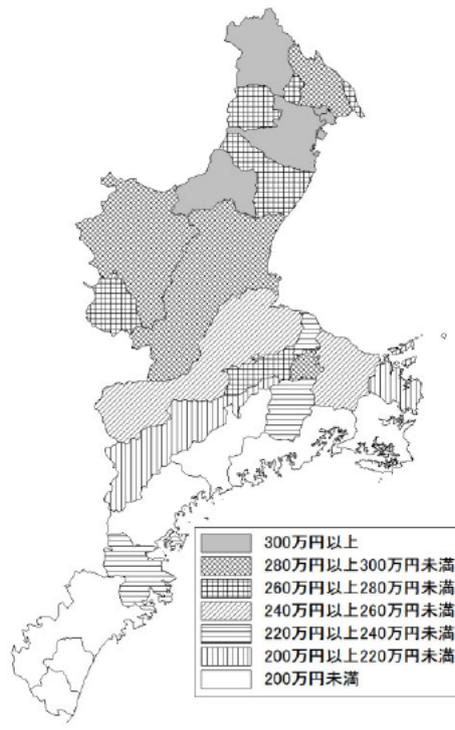
【三重県多文化共生課調べ】

- 外国人住民数は平成20年をピークに減少傾向となっている。

(3) 経済・雇用環境の変化

① 一人当たりの県内市町民所得（平成23年度）

	所得額	順位
全国	272	
三重県	274	全国21位
四日市市	316	1
川越町	316	2
亀山市	315	3
朝日町	315	4
いなべ市	309	5
玉城町	294	6
伊賀市	290	7
津市	286	8
桑名市	284	9
菟野町	273	10
鈴鹿市	272	11
東員町	271	12
木曾岬町	268	13
名張市	263	14
多気町	263	15
松阪市	251	16
伊勢市	245	17
明和町	238	18
尾鷲市	222	19
度会町	220	20
大台町	210	21
鳥羽市	210	22
志摩市	193	23
大紀町	191	24
御浜町	191	25
紀北町	186	26
熊野市	181	27
南伊勢町	180	28
紀宝町	173	29



※ 所得額は、雇用者報酬、財産所得、企業所得の合計であり、個人の所得水準を表わすものではない。

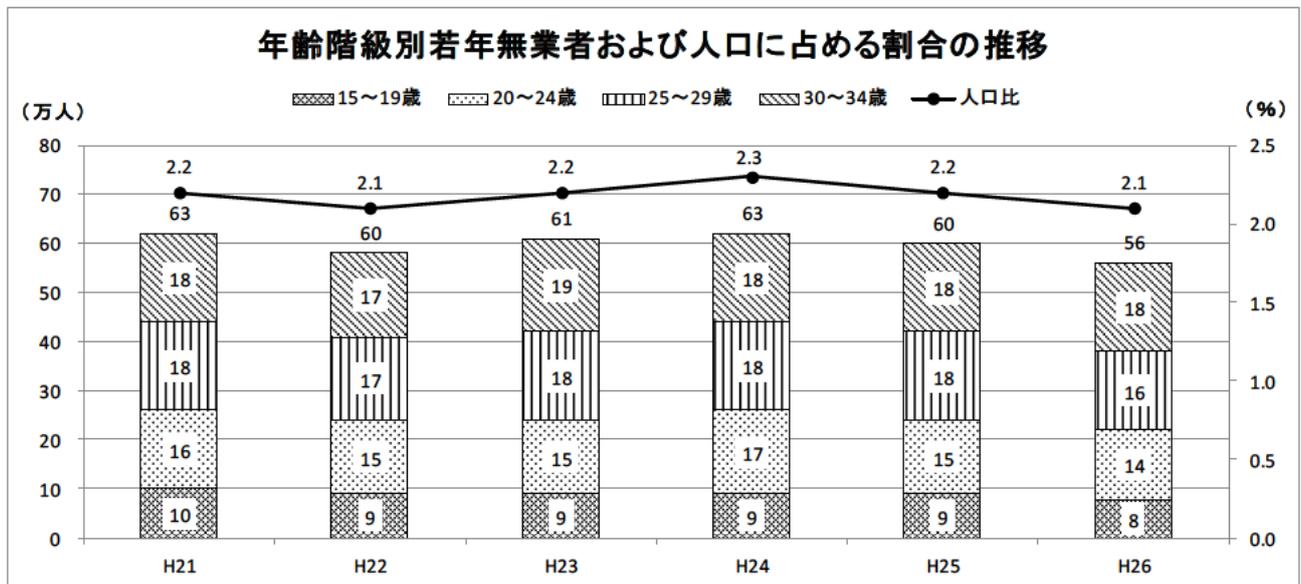
(単位：万円)

【全国：平成25年度国民経済計算確報（内閣府）、三重県：平成23年度県民経済計算（内閣府）、三重県市町：平成23年度三重県の市町民経済計算（三重県調べ）】

- ・ 三重県の一人当たりの県民所得は約274万で、全国順位は21位となっている。県内では、四日市市、川越町、亀山市、朝日町、いなべ市の5市町が300万円を超えている。一方、紀宝町、南伊勢町、熊野市等は低くなっている。

② 年齢階級別若年無業者(*)と人口に占める割合の推移

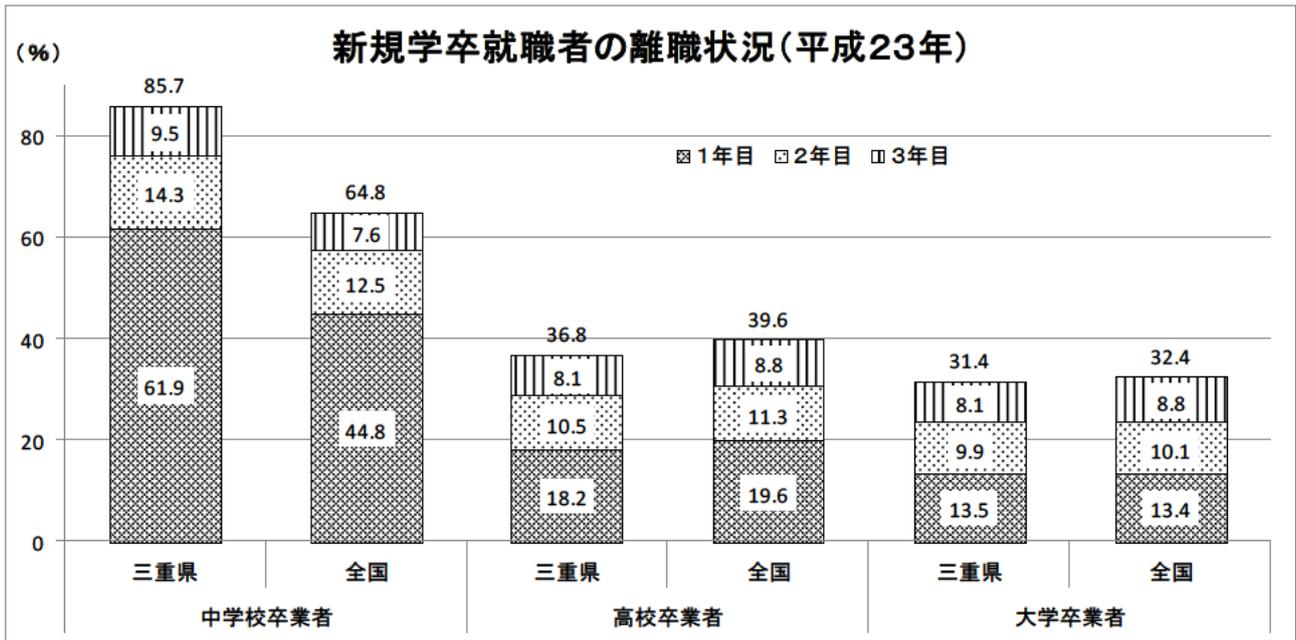
(*) 15～34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない者



【労働力調査（総務省）】

- ・ 若年無業者の数は、ここ数年大きな変化はない。

③ 卒業後3年以内に離職した人の割合



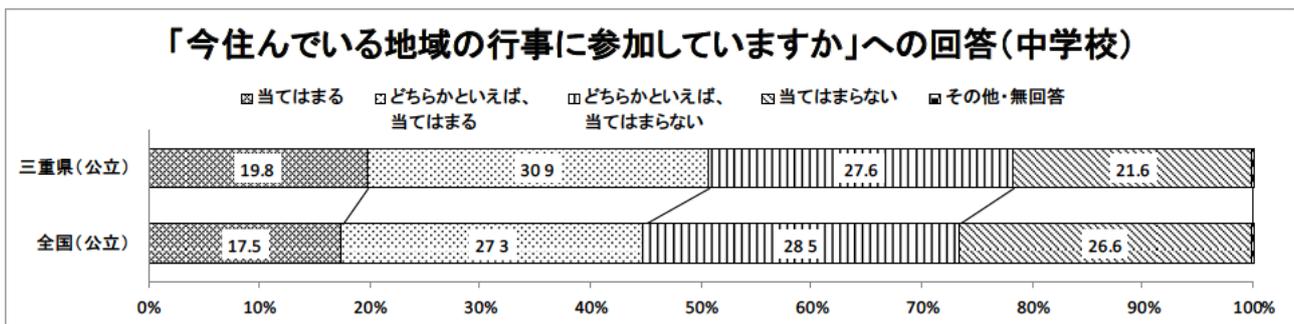
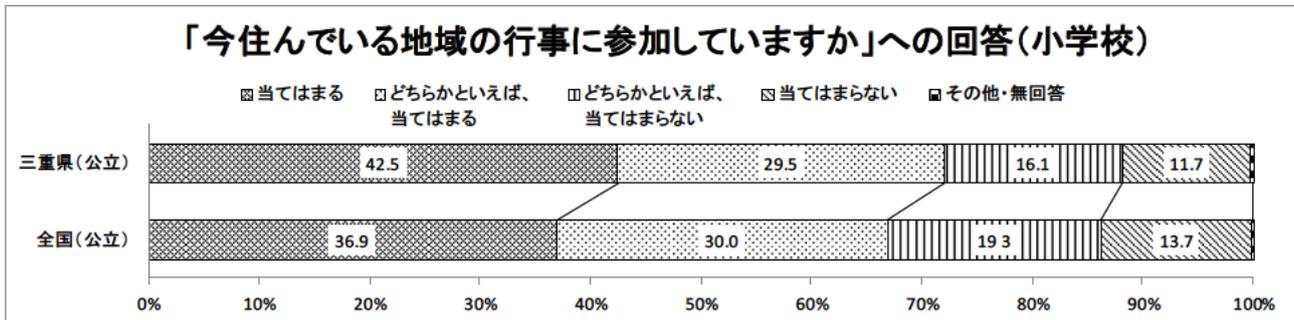
【在職期間別離職状況調査（厚生労働省）および三重労働局調べ】

- 三重県においては、中学校卒業者の約86%、高校卒業者の約37%、大学卒業者の約31%が卒業後3年以内に離職している。高校卒業者と大学卒業者については、3年以内の離職率が全国平均を下回っている。

2 本県の子どもたちの姿

(1) 文化芸術活動

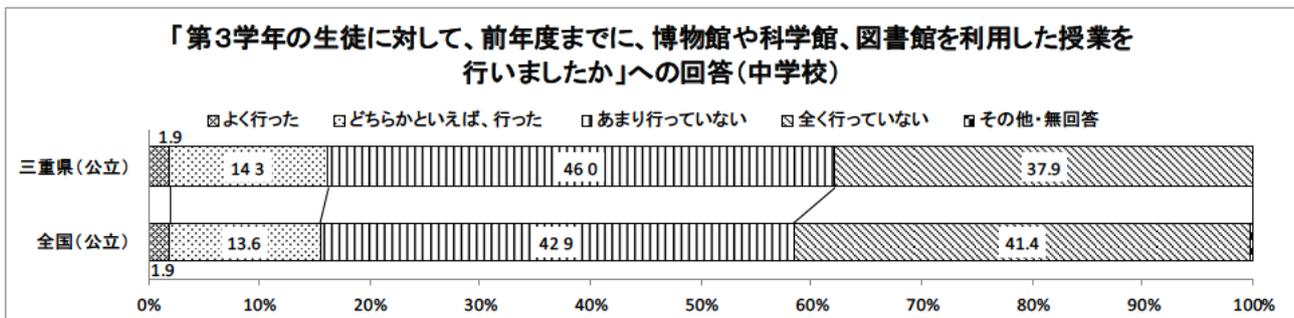
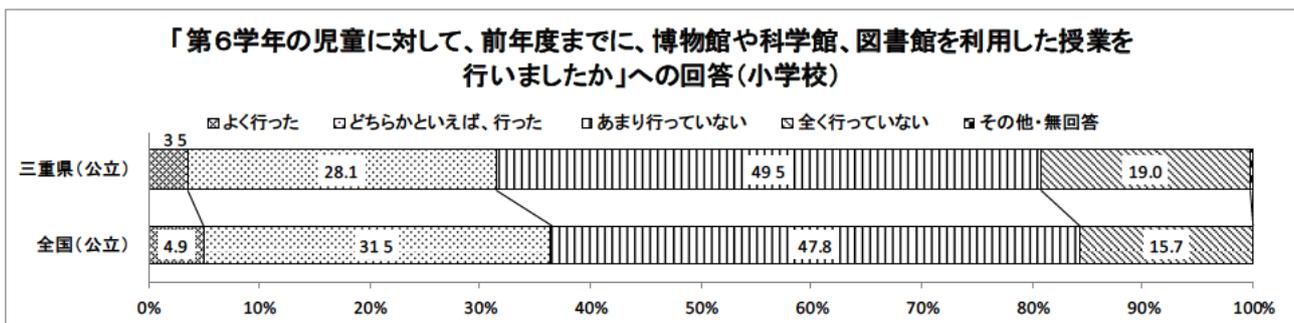
① 住んでいる地域の行事への参加



【平成27年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 地域の行事に参加している、どちらかといえば参加していると肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約72%、中学3年生の割合は約51%で、ともに全国平均より大きい。

② 博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施状況

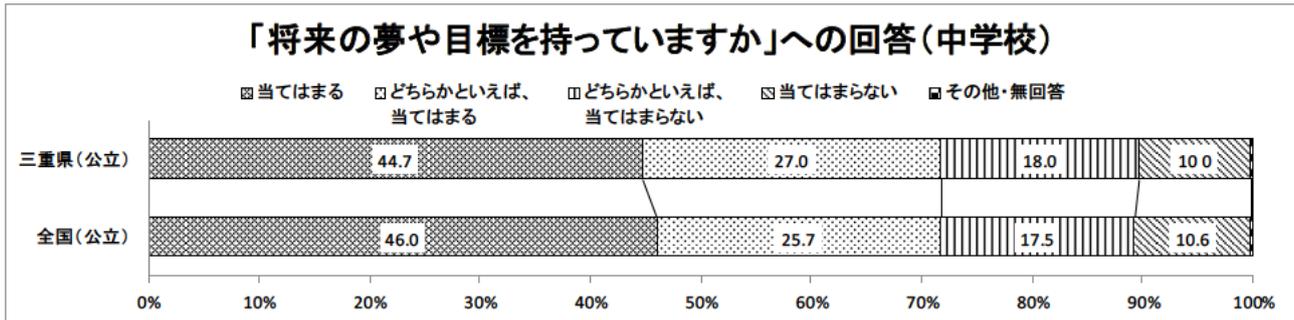
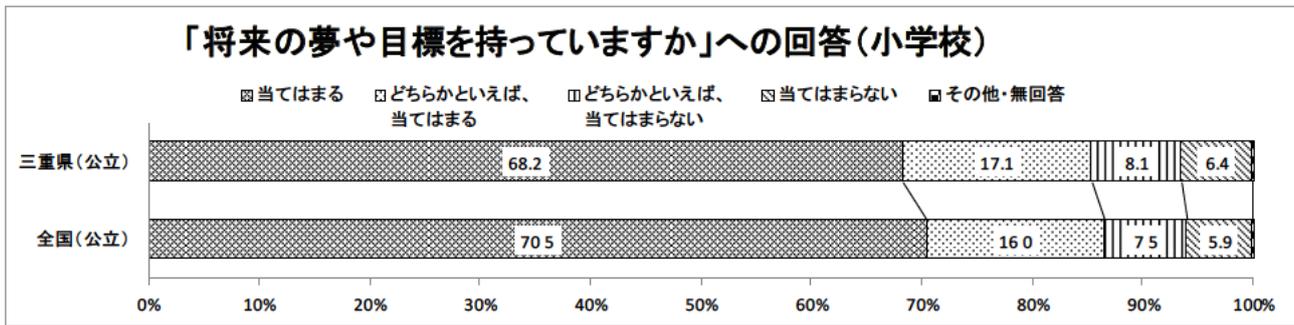


【平成27年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- ・ 博物館や科学館、図書館を利用した授業をよく行った、どちらかといえば行った小学校の割合は約32%で、全国平均より小さい。中学校の割合は約16%で、全国平均より大きい。

(2) キャリア教育・進路

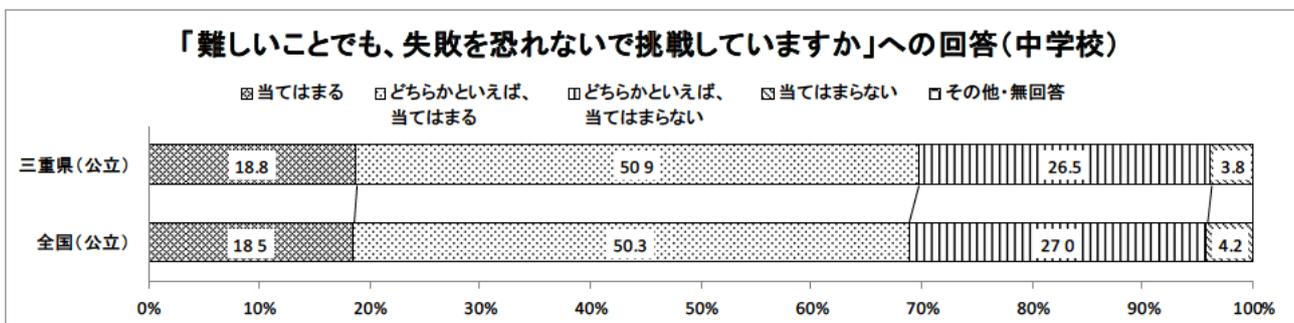
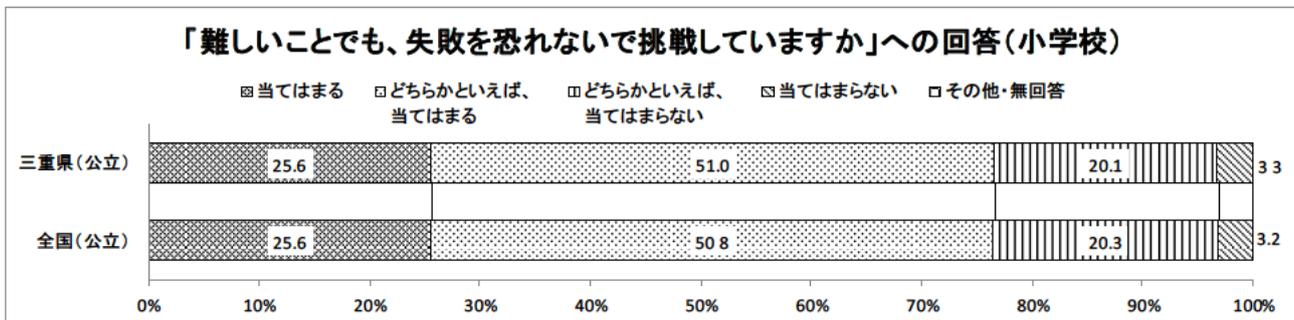
① 将来の夢や目標の有無



【平成27年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている肯定的な回答をしている小学6年生の割合は約85%で、全国平均より小さい。中学3年生の割合は約72%で、全国平均と同じとなっている。

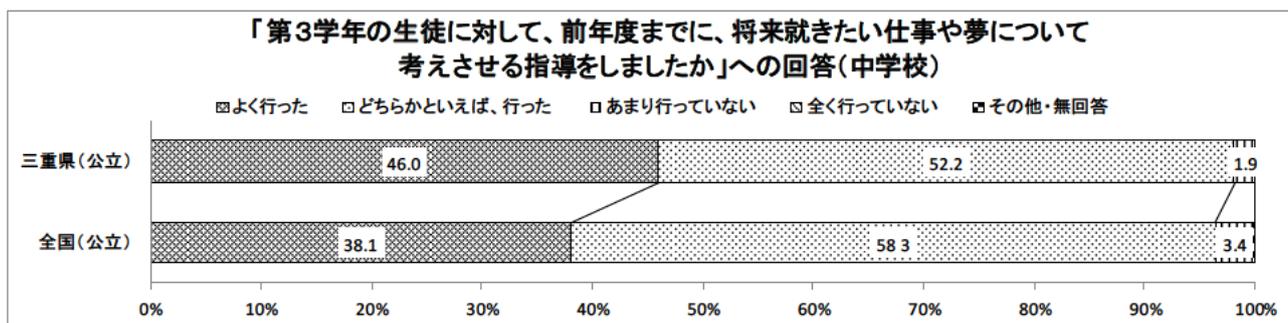
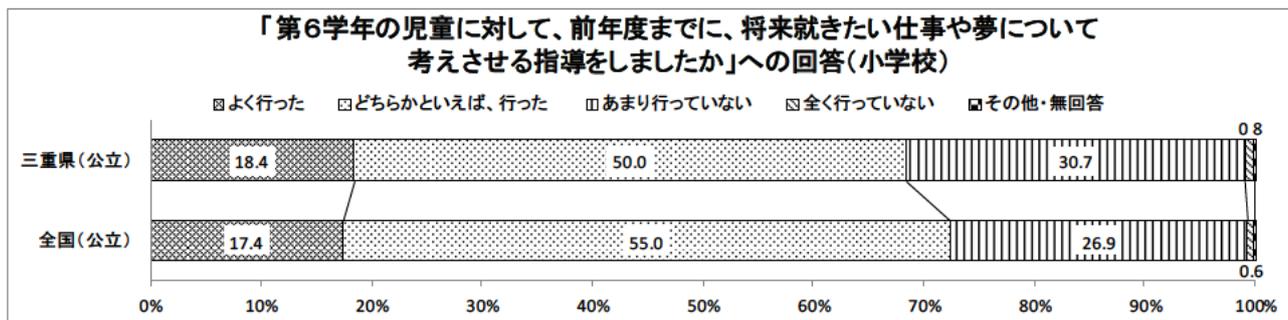
② チャレンジ精神



【平成27年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】

- ・ 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している、どちらかといえば挑戦していると肯定的な回答している小学6年生の割合は約77%で全国平均とほぼ同じとなっている。中学3年生の割合は約70%で、全国平均より大きい。

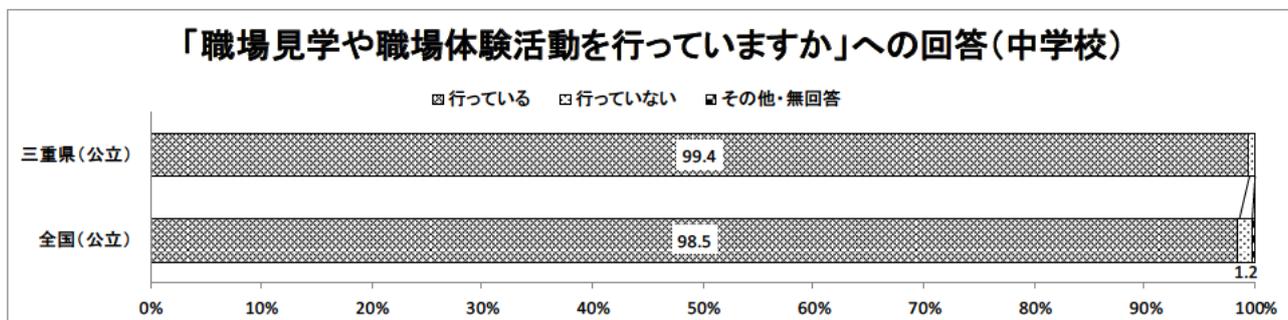
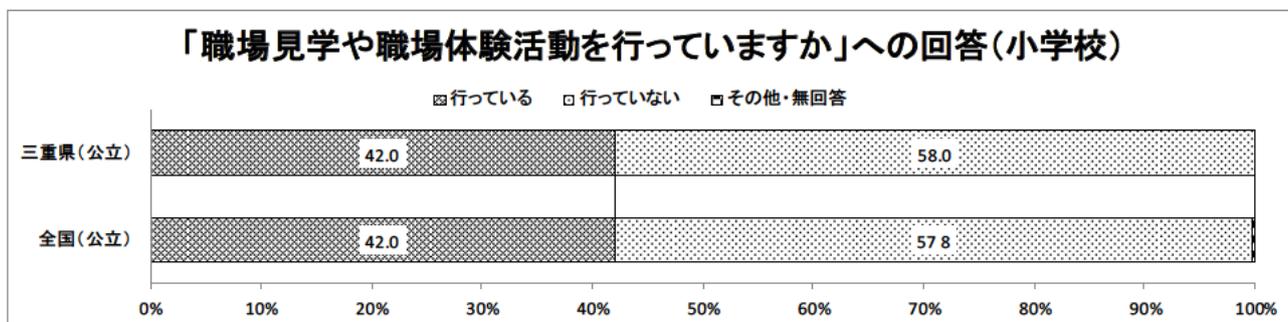
③ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導



【平成27年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- ・ 質問項目に対して肯定的な回答をしている学校の割合は、小学校では約68%で、全国平均より小さい。中学校では98%で、全国平均より大きい。

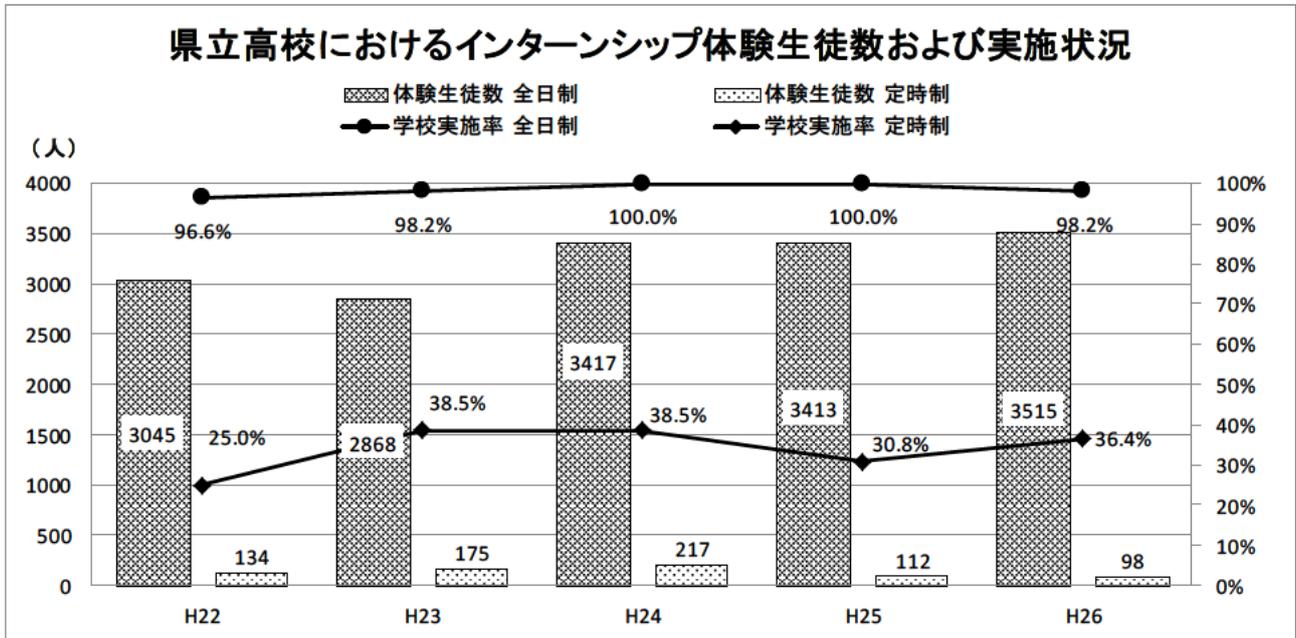
④ 職場見学・職場体験活動の実施状況



【平成27年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙】

- ・ 職場見学・職場体験活動を行っている小学校の割合は、42%で全国平均と同じである。また、中学校では、ほぼすべての中学校で職場見学や職場体験活動が行われている。

⑤ 県立高校におけるインターンシップの実施状況（三重県）

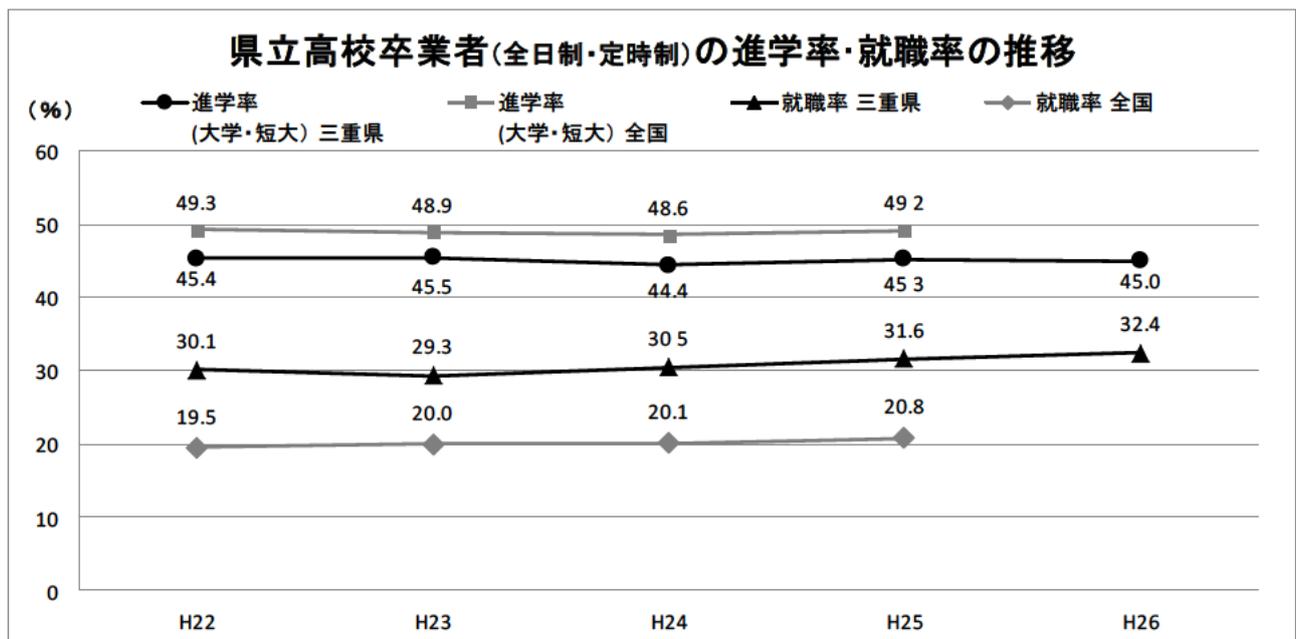


※ 体験生徒数は、在学中に1回以上体験した生徒（全日制においては3年生、定時制においては3・4年生）の数

【三重県教育委員会調べ】

- ・ 全日制高校におけるインターンシップ実施率はほぼ100%となっており、体験生徒数も増加傾向にある。

⑥ 県立高校卒業者の進学率・就職率の推移（三重県）

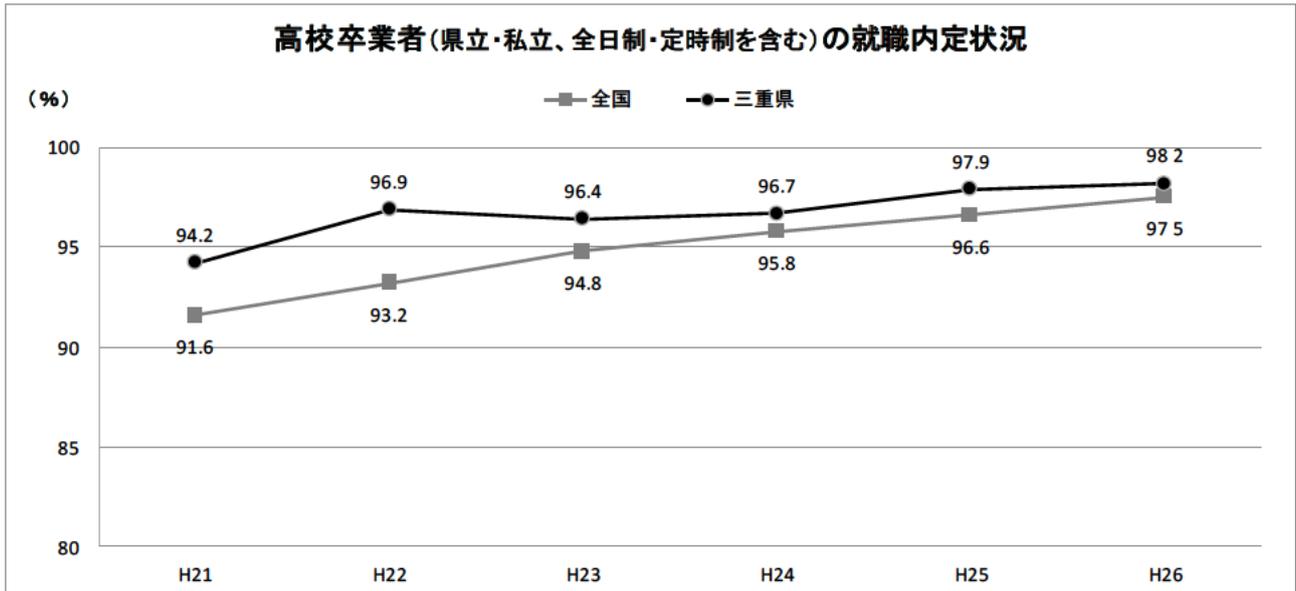


【学校基本調査（文部科学省）】

- ・ 大学・短大への進学率、就職率ともに過去5年間ほぼ同様の傾向となっている。本県は全国に比べて進学率が低く、就職率が高い。

* H26の全国値は平成27年12月頃に確定。

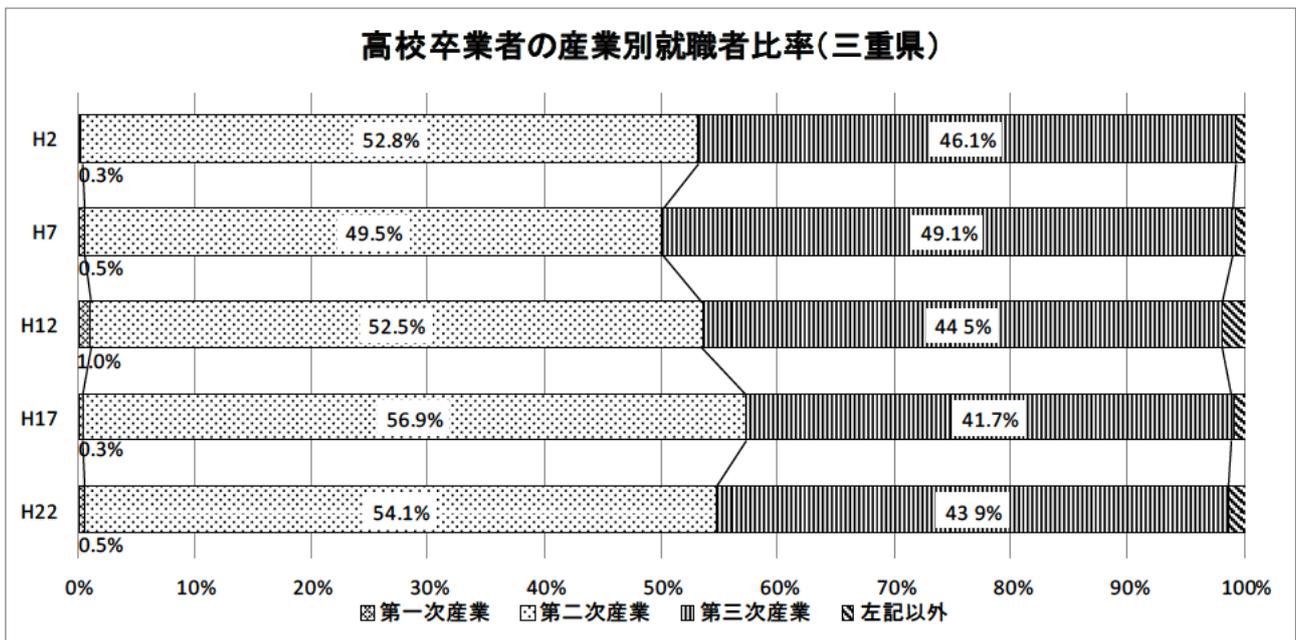
⑦ 高校卒業者（県立・私立、全日制・定時制を含む）の就職内定率の推移



【高等学校卒業者の就職状況に関する調査（文部科学省）】

- ・ 高校卒業者の就職内定率は、全国平均を上回っている。

⑧ 高校卒業者の産業別構成比の推移

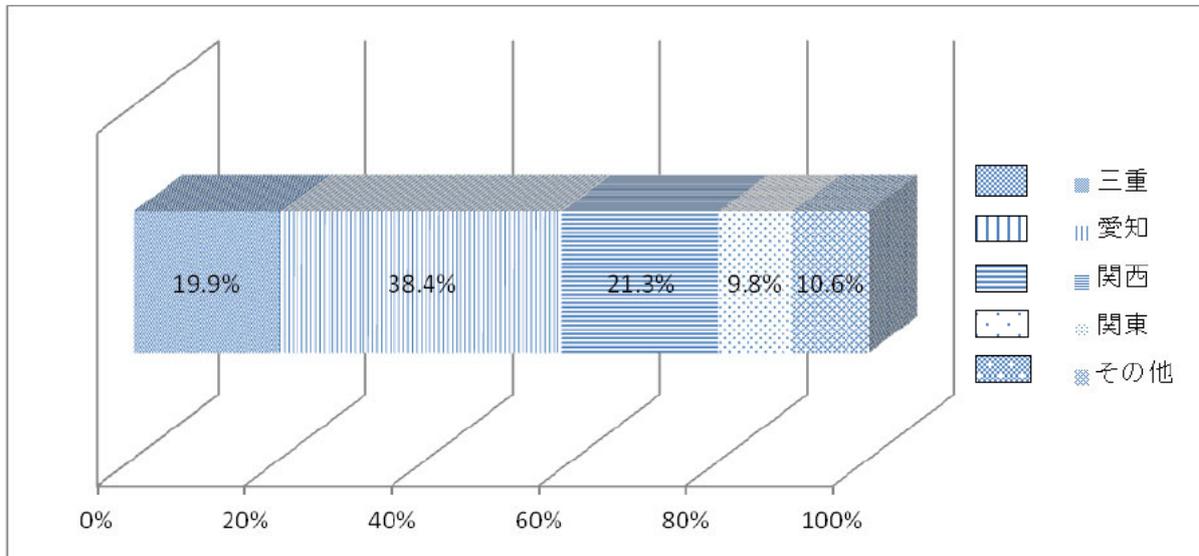


【国勢調査（総務省）】

- ・ 高校卒業者の就職産業の比率に大きな変化はない。

⑨ 県内高校卒業生の進学先、県外就職の状況

○県内高校卒業生の進学先（平成23年度から平成26年度）



(出展：学校基本調査)

○県内高校卒業生の県外就職について

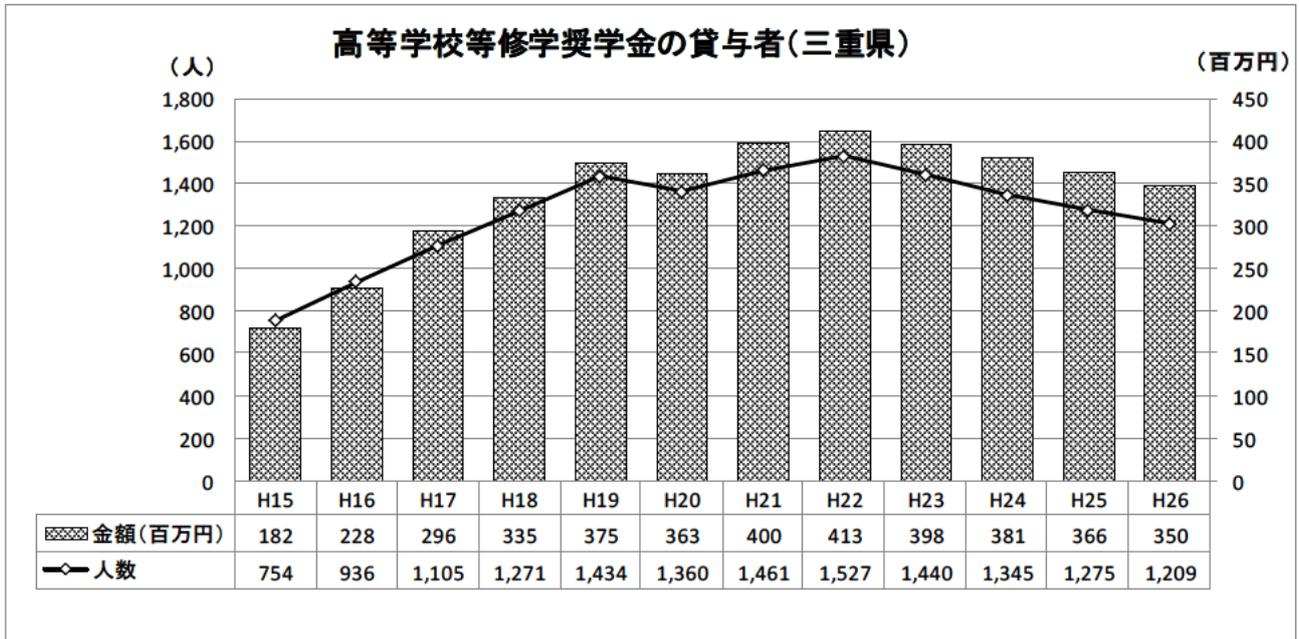
卒業年度	就職者数	県外就職者数	県外就職率
23	4,021人	468人	11.6%
24	3,874人	448人	11.5%
25	4,139人	490人	11.8%
26	4,111人	473人	11.5%
合計	16,145人	1,879人	11.6%

(出展：学校基本調査)

3 子どもたちを取り巻く環境

(1) 安全・安心

① 奨学金貸与者数

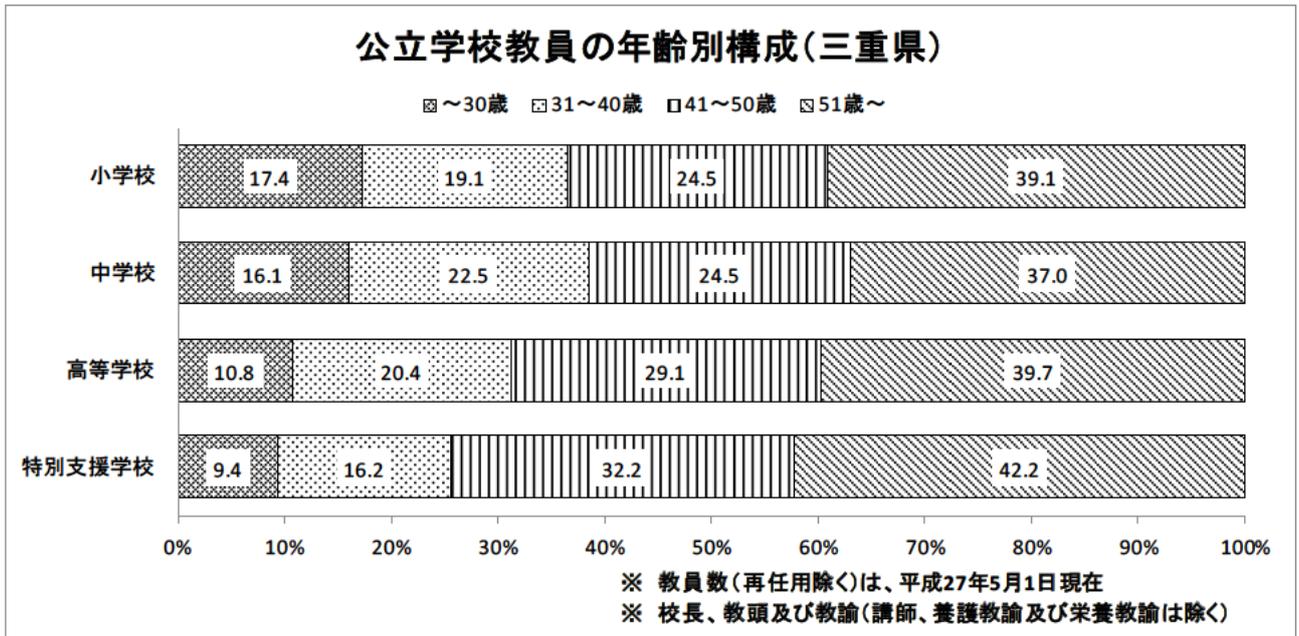


【三重県教育委員会調べ】

- 貸与者数は平成22年度をピークに減少傾向となっている。

(2) 教員

① 教員の年齢構成



【三重県教育委員会調べ】

- 各校種とも51歳以上の占める割合が4割程度になっている。

② 教職員の満足度

平成26年度 教職員満足度調査（設問別 満足度・重要度の平均点）

		満足度(各5点満点)			重要度(各5点満点)		
		平均	順位	項目別	平均	順位	項目別
仕事に関する設問	①今の仕事にやりがいがありますか。	3.85	1	3.40	4.43	1	4.07
	②今の仕事を楽しめますか。	3.38	7		4.21	3	
	③仕事の配分は公平ですか。	2.65	17		3.74	16	
	④管理職は学校の運営や業務に関する職員の提案や意見をよく聞いていますか。	3.72	3		4.14	6	
	⑤職場の方針や業務の進め方の決定に参加する機会がありますか。	3.58	4		3.72	17	
	⑥過度の精神的不安を感じることなく仕事をすすめることができますか。	2.89	12		4.17	5	
	⑦能力や仕事への姿勢、成果は正当に評価されていますか。	3.34	9		3.92	13	
	⑧仕事を進めていくうえで、相談できる人がいますか。	3.77	2		4.25	2	
勤務条件の設問	⑨仕事の内容や責任に見合った給与を受けていますか。	2.65	16	2.49	4.14	8	3.74
	⑩職場では休暇が取りやすいですか。	2.57	18		3.96	12	
	⑪福利厚生の事業は役に立っていますか。	2.73	15		3.15	20	
	⑫現在の総勤務時間は適切ですか。	2.14	20		3.96	11	
	⑬人事異動は適切ですか。	2.77	14		3.85	15	
	⑭昇任のしくみは適切ですか。	2.81	13		3.40	19	
職場環境の設問	⑮職場の環境は快適ですか。	3.01	11	3.03	4.14	7	4.00
	⑯休憩・休息など「ホッ」とできる場所がありますか。	2.34	19		3.89	14	
	⑰セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントを許さない雰囲気がありますか。	3.49	5		4.00	10	
	⑱自由に意見や提案ができるなどみんなが協力しあう雰囲気がありますか。	3.37	8		4.20	4	
	⑲研修への積極的な参加について支援がなされていますか。	3.42	6		3.63	18	
	⑳職場では、必要な情報が確実に共有されていますか。	3.03	10		4.14	9	
計		61.53		3.08	79.02		3.95

【三重県教育委員会調べ】

- 全体の満足度は、100点満点中61.53点で、昨年度59.82点より高くなった。満足度が高いものは、「①仕事のやりがい」「⑧相談できる人がいる」「④管理職への対案意見」となっている。「①仕事のやりがい」「⑧相談できる人がいる」は、重要度も高い。一方、満足度が低いものは、「⑫総勤務時間」「⑯休憩・休息場所」「⑩休暇の取りやすさ」となっている。

(3) 学校

① コミュニティ・スクール (*1) の状況

コミュニティ・スクール一覧 (指定年月日) ※計 60 校 (予定 1 校含む)

小学校 (41 校)	津市立南が丘小学校	(H17 年 12 月 26 日)
	いなべ市立立田小学校	(H19 年 6 月 1 日)
	いなべ市立石樽小学校	(H19 年 6 月 1 日)
	御浜町立尾呂志学園小学校	(H20 年 5 月 1 日)
	鈴鹿市立小学校 全 30 校	(H23 年 4 月 1 日)
	志摩市立鶴方小学校	(H23 年 5 月 1 日)
	亀山市立加太小学校	(H24 年 4 月 1 日)
	松阪市立第四小学校	(H25 年 4 月 1 日)
	松阪市立港小学校	(H25 年 4 月 1 日)
	亀山市立川崎小学校	(H26 年 4 月 1 日)
	亀山市立昼生小学校	(H27 年 4 月 1 日)
尾鷲市立尾鷲小学校	(H27 年度中に設置予定)	
中学校 (17 校)	津市立朝陽中学校	(H19 年 5 月 1 日)
	御浜町立尾呂志学園中学校	(H20 年 5 月 1 日)
	伊勢市立厚生中学校	(H21 年 10 月 22 日)
	伊賀市立城東中学校	(H22 年 10 月 1 日)
	鈴鹿市立中学校 全 10 校	(H23 年 4 月 1 日)
	松阪市立鎌田中学校	(H25 年 4 月 1 日)
	津市立南が丘中学校	(H27 年 4 月 1 日)
多気町立勢和中学校	(H27 年 4 月 1 日)	
高等学校 (2 校)	三重県立紀南高等学校	(H19 年 6 月 1 日)
	三重県立白山高等学校	(H25 年 4 月 1 日)

【三重県教育員会調べ】

* コミュニティ・スクール：保護者や地域住民が、学校の方針決定や教職員の人事について、一定の権限を持って学校運営に関与するタイプの公立学校。教育委員会が指定した学校に学校運営協議会を設置することによって実現する。

② 学校支援地域本部（*1）の設置状況

		平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
設置市町数		6	8	12	11	13
設置学校数	幼稚園	4	32	31	18	25
	小学校	78	120	139	159	165
	中学校	17	31	40	55	59
	合計（幼小中）	99	183	210	232	249

【三重県教育員会調べ】

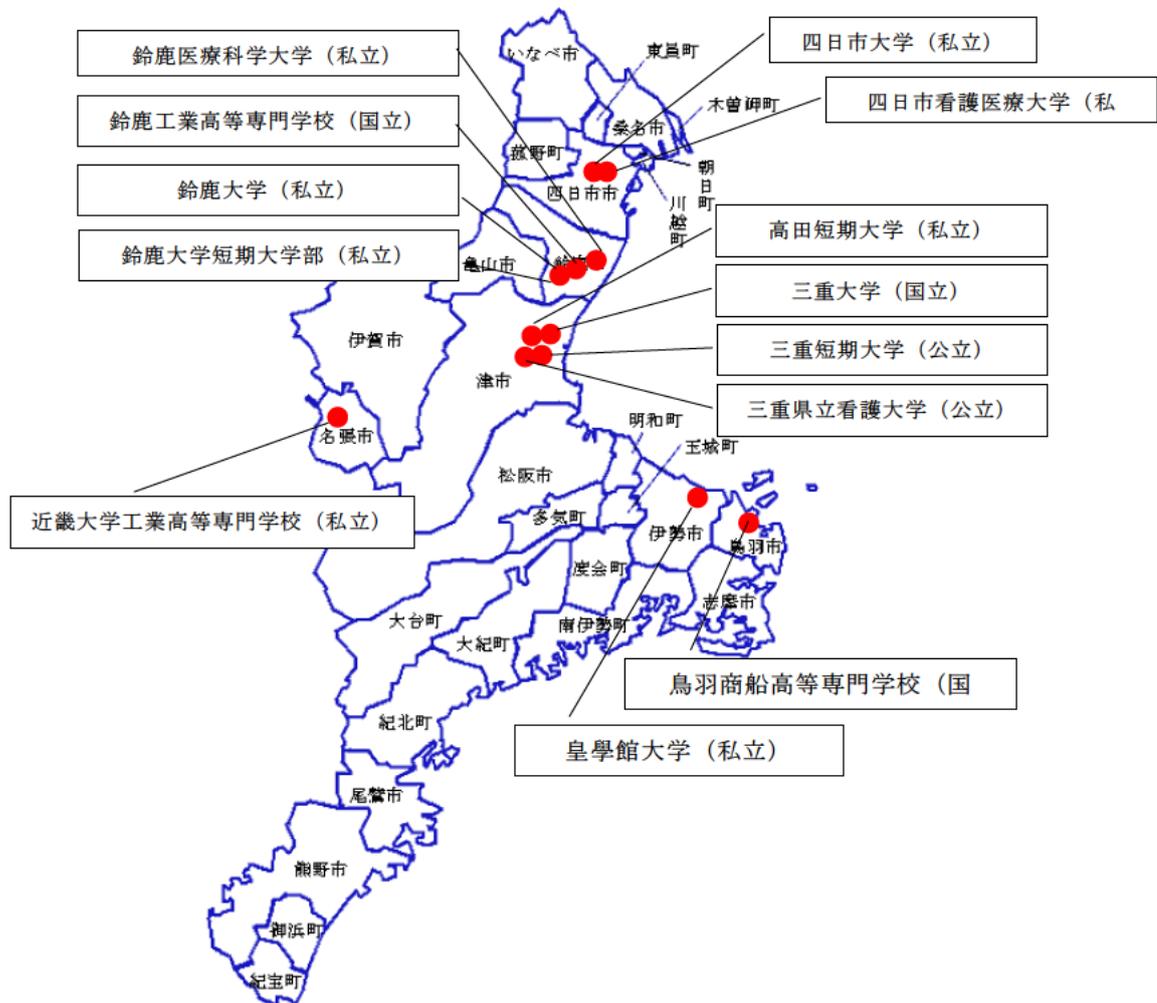
平成27年度の小中学校の設置学校数は、224校（設置割合約42.0%）である。

- * 学校支援地域本部：学習支援等、学校の教育活動を支援するため、地域住民の学校支援ボランティアなどへの参加をコーディネートする組織で、いわば「地域につくられた学校の応援団」。地域住民が学校を支援する取組を組織的なものとし、学校の求めと地域の力をマッチングして、より効果的な学校支援を行い、教育の充実を図ろうとするもの。

4 高等教育機関の現状

(1) 県内高等教育機関の状況

① 県内高等教育機関の配置



② 高等教育機関の数に関する他府県との比較

府県	大学				短大				高専			
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計
三重県 (約185万人)	1	1	5	7	0	1	2	3	2	0	1	3
【総人口が類似の県】												
熊本県 (約182万人)	1	1	7	9	0	0	2	2	1	0	0	1
岡山県 (約195万人)	1	2	14	17	0	2	8	10	1	0	0	1
栃木県 (約201万人)	1	0	8	9	0	0	6	6	1	0	0	1
群馬県 (約201万人)	1	4	8	13	0	0	8	8	1	0	0	1
福島県 (約201万人)	1	2	5	8	0	1	4	5	1	0	0	1
【県境を隣接する府県】												
愛知県 (約741万人)	4	5	42	51	0	0	22	22	1	0	0	1
岐阜県 (約208万人)	1	3	8	12	0	1	10	11	1	0	0	1
滋賀県 (約141万人)	2	1	5	8	0	0	3	3	0	0	0	0
京都府 (約264万人)	3	3	28	34	0	0	14	14	1	0	0	1
奈良県 (約140万人)	3	2	6	11	0	0	4	4	1	0	0	1
和歌山県 (約100万人)	1	1	1	3	0	0	1	1	1	0	0	1

(文部科学省「平成26年度学校基本調査」)

(2) 県内高等教育機関の基本情報

三重大学(国立大学法人)
創立: 昭和24年

学部・学科等	収容定員	学部・学科等	収容定員	学部・学科等	収容定員
人文学部(文化学科)	420人	医学部(医学科)	750人	生物資源学部(資源循環学科)	246人
同(法律経済学科)	700人	同(看護学科)	340人	同(共生環境学科)	346人
教育学部(学校教育教員養成課程)	580人	工学部(機械工学科)	340人	同(生物圏生命化学科)	388人
同(情報教育課程)	80人	同(電気電子工学科)	340人		
同(生涯教育課程)	60人	同(分子素材工学科)	400人		
同(人間発達科学課程)	80人	同(建築学科)	180人		
		同(情報工学科)	240人		
		同(物理工学科)	160人		

【収容定員計: 5,650人】

三重県立看護大学(県立)
創立: 平成9年

学部・学科等	定員数
看護学部(看護学科)	400人

【収容定員計: 400人】

四日市大学(私立)
創立: 昭和63年

学部・学科等	収容定員
経済学部 (経済経営学科)	340人
環境情報学部 (環境情報学科)	310人
総合政策学部 (総合政策学科)	310人

【収容定員計: 960人】

四日市看護医療大学(私立)
創立: 平成19年

学部・学科等	収容定員
看護学部(看護学科)	400人

【収容定員計: 400人】

鈴鹿医療科学大学(私立)
創立: 平成3年

学部・学科等	収容定員	学部・学科等	収容定員
保健衛生学部(放射線技術科)	410人	同(鍼灸学科)	124人
同(医療栄養学科・管理栄養コース)	166人	医用工学部(臨床工学科)	172人
同(同・臨床検査コース)	160人	同(医用情報工学科)	124人
同(理学療法学科)	160人	薬学部(薬学科)	600人
同(医療福祉学科・医療福祉コース)	126人	看護学部(看護学科)	320人
同(同・臨床心理コース)	120人		

【収容定員計: 2,482人】

鈴鹿大学(私立)
創立:平成6年

学部・学科等	収容定員
国際人間科学部	560人

【収容定員計:560人】

皇學館大学(私立)
創立:昭和37年

学部・学科等	収容定員
文学部 (神道学科)	280人
同 (国文学科)	320人
同 (国史学科)	320人
同 (コミュニケーション学科)	320人
教育学部 (教育学科)	840人
現代日本社会学部 (現代日本社会学科)	400人

【収容定員計:2,480人】

三重短期大学(市立)
創立:昭和27年

学部・学科等	収容定員
法経科第1部	200人
同・第2部	300人
生活科学科 食物栄養学専攻	100人
同・生活科学専攻	200人

【収容定員計:800人】

高田短期大学(私立)
創立:昭和41年

学部・学科等	収容定員
子ども学科	300人
キャリア育成学科 (オ フィスワークコース、 介護福祉コース)	200人

【収容定員計:500人】

鈴鹿大学短期大学部(私立)
創立:昭和41年

学部・学科等	収容定員
生活コミュニケーション 学専攻 (養護教諭・福祉 コース、生活コミュニ ケーションコース)	80人
こども学専攻 (幼稚園教 諭・保育士コース)	180人
食物栄養学専攻 (栄養教 諭・栄養士コース)	80人

【収容定員計:340人】

鈴鹿工業高等専門学校(国立)
創立:昭和37年

学部・学科等	収容定員
機械工学科	200人
電気電子工学科	200人
電子情報工学科	200人
生物応用化学科	200人
材料工学科	200人
[専攻科] 電子機 械工学専攻	24人
[専攻科] 応用物 質工学専攻	16人

【収容定員計:1,040人】

鳥羽商船高等専門学校(国立)
創立:昭和42年

学部・学科等	収容定員
商船学科 (航海コー ス、機関コース)	200人
電子機械工学科	200人
制御情報工学科	200人
[専攻科] 海事シス テム学専攻	8人
[専攻科] 生産シス テム工学専攻	16人

【収容定員計:624人】

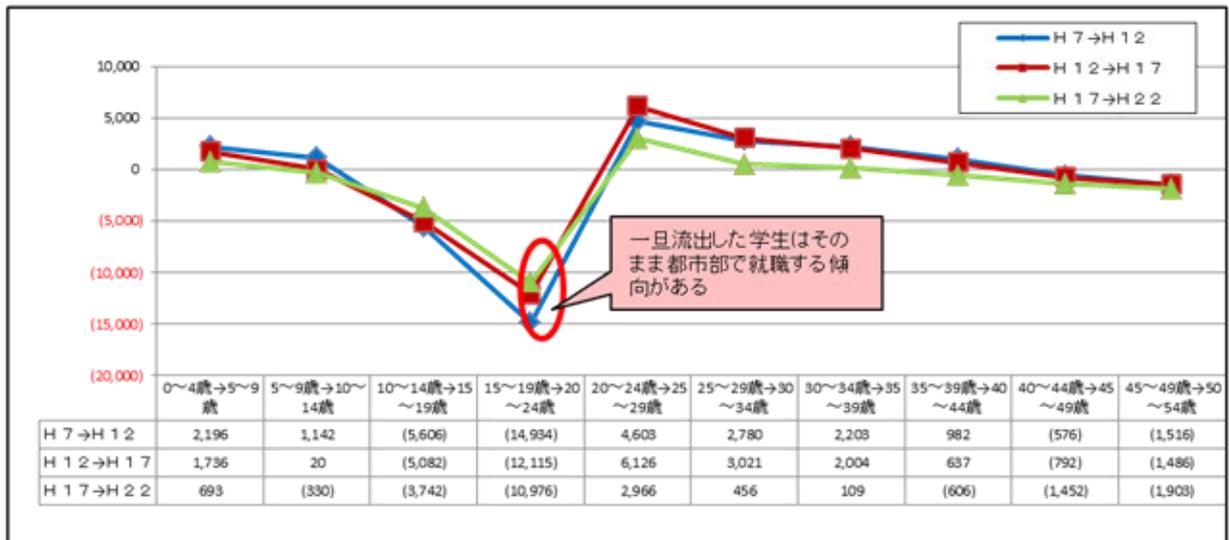
**近畿大学工業高等専門学校
(私立)**
創立:昭和42年

学部・学科等	収容定員
総合システム工学科	800人
[専攻科] 生産シス テム工学専攻	36人

【収容定員計:836人】

(3) 三重県の課題

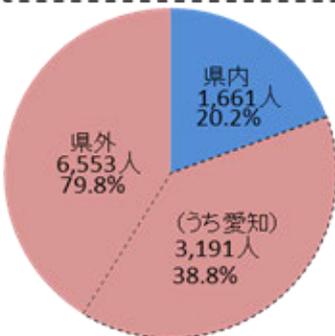
●コーホート分析



出典：総務省「国勢調査」

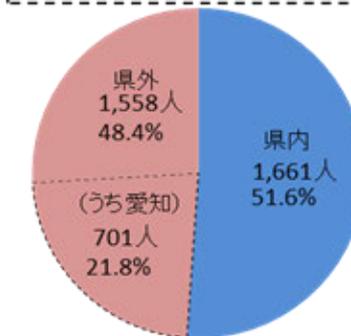
●三重県における大学への進学状況及び大学卒業生の就職状況

平成26年4月に大学に進学した県内高校卒業生のうち県内大学に進学した者の割合は20.2%



出典：文部科学省「学校基本調査」

平成26年4月に県内大学に進学した学生のうち県内高校出身者の割合は51.6%



出典：三重県作成

平成26年3月に県内大学を卒業した学生のうち県内企業に就職した学生の割合は47.5%

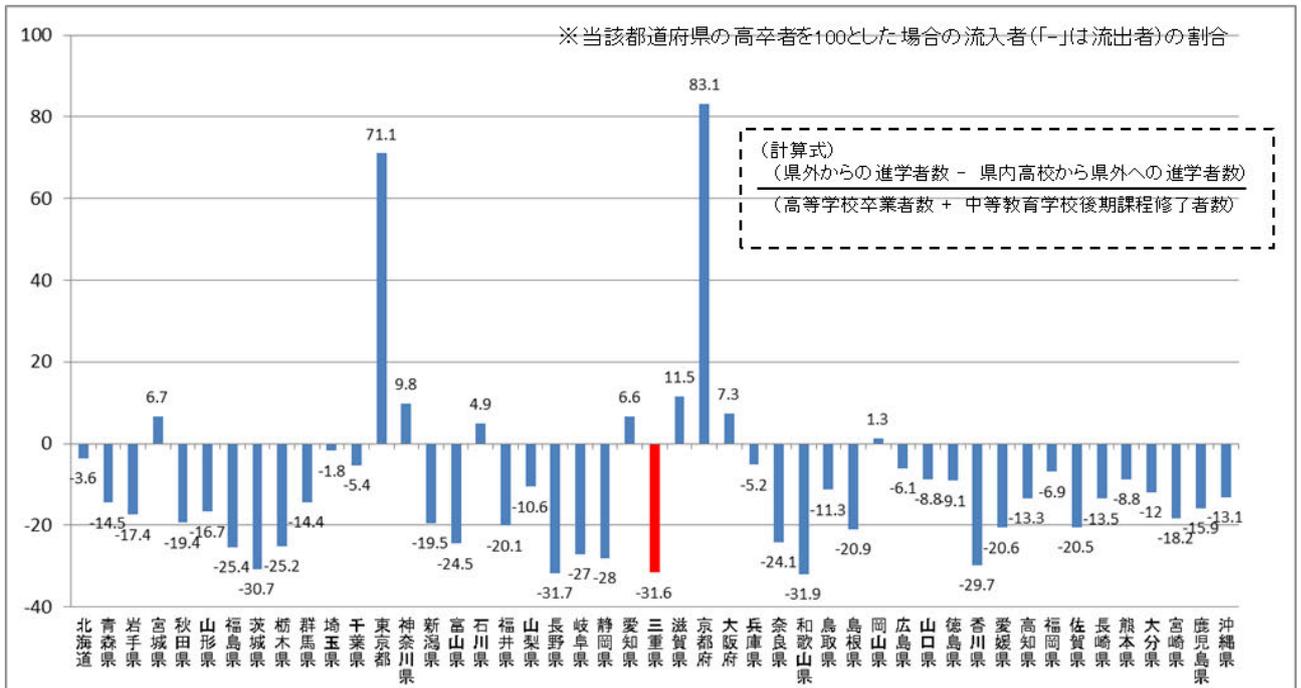


●都道府県別大学収容力指数(上位・下位5都道府県)

大学収容力指数									
順位	都道府県名	上位5都道府県			順位	都道府県名	下位5都道府県		
		H17年度	H22年度	H25年度			H17年度	H22年度	H25年度
1	京都府	262.5	249.0	248.5	43	静岡県	52.9	48.4	50.5
2	東京都	249.4	237.3	229.9	44	福島県	54.9	46.5	47.0
3	福岡県	143.1	136.6	136.1	45	長野県	46.8	42.9	44.0
4	大阪府	159.1	143.5	136.0	46	三重県	44.3	42.7	43.0
5	神奈川県	171.8	156.5	134.3	47	和歌山県	39.0	39.3	42.2

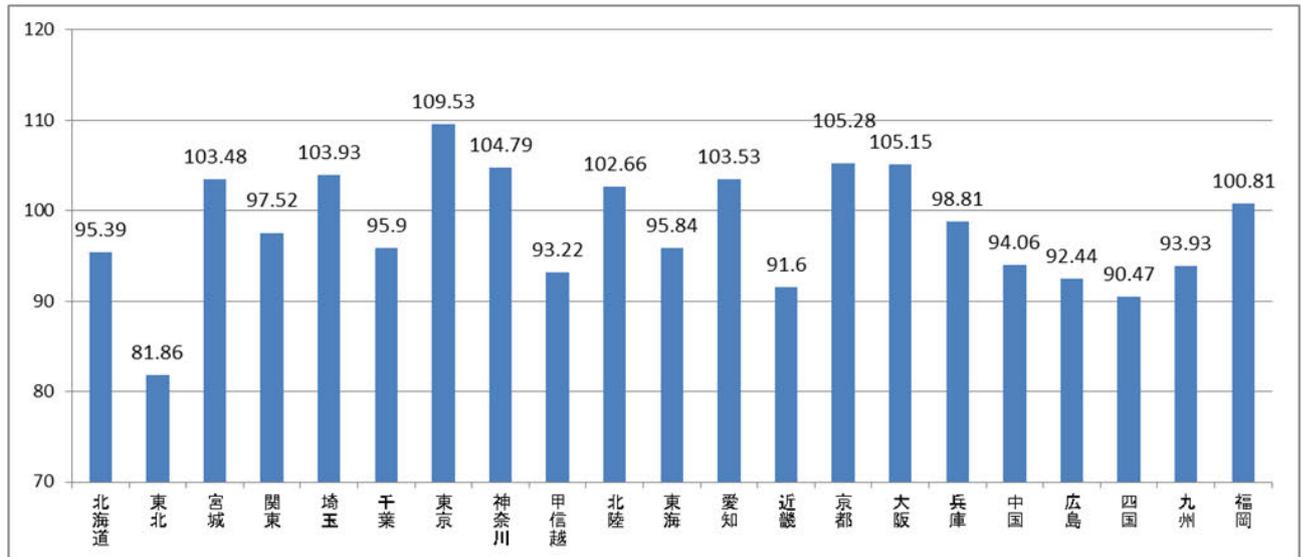
出典：総務省「社会生活統計指標」

●大学進学時の都道府県別流入・流出率(平成26年度)



出典: 文部科学省「教育再生実行会議第6次提言参考資料」を基に三重県作成

●私立大学・短期大学の地域別の入学定員充足率(大学・学校別)(平成26年度)



地域区分

北海道	北海道	東海	岐阜・静岡・三重
東北	青森・岩手・秋田・山形・福島	愛知	愛知
宮城	宮城	近畿	滋賀・奈良・和歌山
関東	茨城・栃木・群馬	京都	京都
埼玉	埼玉	大阪	大阪
千葉	千葉	兵庫	兵庫
東京	東京	中国	鳥取・島根・岡山・山口
神奈川	神奈川	広島	広島
甲信越	新潟・山梨・長野	四国	徳島・香川・愛媛・高知
北陸	富山・石川・福井	九州	佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄
		福岡	福岡

出典: 日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター
 「平成26(2014)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」を基に三重県作成